

雲石いいとこみつけプロジェクト

さんぎょう
②産業

にじ 虹のものいとなみ



雲石町では、どんなひとたちが、何の仕事をしているんだろう。



雲石家の人びと



お父さん



お母さん



お兄ちゃん



わたし



弟



おじいちゃん



おばあちゃん



しづくいしちょうきょういくいんかい
雲石町教育委員会



しづくいしの

だいち 大地のめぐみ

おいしい野菜カレンダー

野菜の種類	種まき 植えつけ 収穫											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
きゅうり					■	■						
トマト				■	■	■						
ミニトマト			■	■	■	■						
ピーマン				■	■	■						
ながねぎ		■	■		■	■						
ブロッコリー				■	■	■						
アスパラガス				■	■	■						
きぬさや			■	■	■	■						
ほうれんそう 寒じめほうれんそう					■	■	■	■	■	■	■	■
しゅんぎく						■	■	■	■	■	■	■



群れ 白鳥の冬の田んぼに



稲刈りが終わった田んぼに、白鳥が来ているよ。



寒さを活かした米づくり

有限会社ファーム菅久 常務取締役 菅原絹子さん

寒石は冬の寒さがきついところです。この寒さによって、農薬や化学肥料をおさえてお米をつくることができます。稲刈りの後から春にかけて土づくりをし、栄養たっぷりの土と健康でじょうぶな苗で、よりおいしいお米をつくることができます。いろんな人に「農業ってたいへんな仕事だね」とよく言われるのが、わたしには不思議でなりません。どんな仕事にもたいへんなことがあって、でも、そのたいへんがやりがいや楽しさもあると感っているからです。これからも楽しんで仕事がしたいと思っています。



町内でたくさんとれる野菜
ベスト10[®]のカレンダーだよ。
※2020(令和2)年度の出荷額、
JA調べ。出荷額順ではありません。



おいしい野菜がたくさん

高橋瑞奈さん

寒石のながねぎがあまくてやわらかいのは、暑さ寒さの差が大きいから。

寒さに負けないようにがんばってあまくなるんですね。
雪の中で冬を越し、春に収穫するものもあるんですよ。

「自分の子どもに自分のつくった野菜を食べさせたいなあ」と思ったのが、父が始めたながねぎづくりをついだきっかけです。両親が送ってくれた野菜が、買ったものとはくらべものにならないくらいおいしかったんです。

給食でうちのながねぎを食べてもらったり、直でお客さんが喜んでいる顔を見たりするうれしいですね。



うわっ、すごい数のながねぎづくりがさかなんだよ。

寒石はながねぎづくりがさかなんだよ。



小学校のとき、給食で寒石牛が出たな。

寒石の跨る黒毛和牛だからな。肥育を始めたのは40年くらい前。みんな愛情こめて畜てているよ。



牛のセリがあるぞ



きれいな水で育つ牛

前田恵幸さん

寒石で生まれた子牛は、遠く九州から買いにくく人もいるくらいです。

いい牛が育つ一番の理由は、山の雪どけ水からくるきれいなわき水です。水道水だと、牛はあまり飲まないんですよ。

親牛への種付けから考えると、いい牛に育てあげるまで3年半くらい。生き物相手なので気がぬけませんが、手をかけなければかけただけいい牛が育ちます。

うちでは、肉牛を育てるときに米づくりもしています。稲わらは牛のえさや牛舎のしきわらになりますし、牛のふんは田んぼの肥料になります。牛を育てることと米づくりを組み合わせることで、何もむだにしない農業になっているのです。



つち もり さんぎょう 土や森をつくり、産業をおこす

新鮮な奇蹟 小岩井農場

このあたりは、岩手山や秋田駒ヶ岳の噴火による土砂や火山灰でできた酸性でやせた土地です。わき水が多い湿地帯で、冷たい西風が強く吹き、田畠にはできなかったのです。

1891(明治24)年に開設された小岩井農場では、土を改良し、湿地の水はけをよくして牧場をつくり、防風・防雪のため木を植えて森を育てました。そして、この地に「酪農」という新しい産業をおこしたのです。農場ができて30年ほどたった1922(大正11)年、宮沢賢治は「小岩井農場」という詩の中でこううたっています。

すみやかなすみやかな方法流転のなかに
小岩井のきれいな野はらや牧場の標本が
いかにも確かに繼起するといふことが
どんなに新鮮な奇蹟だらう

きれいな牧草地や森があつて、
たくさん観光客が来る小岩井農場
だけど、農場が開かれたころは
一面の荒れ地だったんだぞ。



この牧場も森も、
100年以上かけてつ
くってきたもの。みんな
の努力を知ってい
たから、賢治は「新鮮
な奇蹟」って言ってる
のね。

牛のふんを堆肥にするのは、農場の中にある「株式会社バイオマスパワーしづくいし」だよ。ふんや給食を使った野菜のむきくずなどから分けられた液体からつくったメタンガスで発電もしているんだ。



今では、農場内で育てられた牧草やトウモロコシを主なえさとして牛が育ち、牛乳や乳製品がつくられ、牛のふんは堆肥にして牧草やトウモロコシを育てるのに使われます。

牧場や畑を守る防風林の造成は、農場全体の約3分の2をしめる森へと発展しました。農場では森を管理し、木材をつくるほか、人びとに森を体験してもらう自然観察ツアーも行っています。

むかしは農場に200世帯ほどの人が住み、小学校や病院まであったのよ。野沢さんもそこの卒業生なんだって。

小岩井農牧株式会社 小岩井農場資料館館長 野沢裕美さん

小岩井農場は、土地を変え、森をつくり、環境を整えることで、田畠にならない場所で「酪農」という新しい産業をおこしました。
その努力はまだ続いています。例えば牧草地も、排水をやめると湿地に逆戻りしてしまうのです。
防風・防雪のための植林は、山林事業になり、環境緑化事業に発展しました。陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園の計画や滝沢市の小諸葛川の水辺緑化などにもたずさわっています。



いそかわいいとこみつけプロジェクト

③ 食

虹がてらすめぐみ



いそかわいい
栗石町の
「食」について
じら
調べてみよう。



栗石の人びと



お父さん



いそかわいい
栗石町教育委員会



わたし



おじいちゃん



おばあちゃん



しづくいしの おいしい産物



小学校で「銀河のしづく」の稲刈りをしてきたよ。



きれいな水は稻作に大切だし、涼しいとイネの病気や害虫が出にくんだ。
零石のお米はうまいぞ。



しづくいしのお米

きれいな水があり、涼しくさわやかな気候の零石は、おいしいお米をつくるのにむいている場所です。

町内の耕地面積のうち、およそ3分の2が田んぼで、岩手県のオリジナル品種である「銀河のしづく」や、「あきたこまち」などが育てられています。



しづくいしのおいしさを広める

零石町では、町内産のおいしくて安全・安心な農産物をみんなに広めるため、町内で完熟した堆肥などによる土づくりで育てられたお米や野菜などを「しづくいし産農産物」として認証し、町内でできたお米や野菜などをみんなに提供する小売店・飲食店・旅館やホテルを「しづくいし産農産物提供店」として認定しています。



左上が零石産のおいしくて安心なお米を表すマーク、下が零石産の農産物をつかっている店のマークだよ。



まるやかな風味とコクで知られ、岩手県畜産共進会で名鑑賞(最高賞)を獲得した零石牛。でも、町内で育った牛がぜんぶ「零石牛」を名のれるわけじゃないんだ。



零石牛とは

零石の豊かな自然の中で、畜産農家が大切に育てた黒毛和牛です。黒毛和牛は肉牛の中でも肉質が細かく、食感のいい肉がとれる種類で、さらにその中でも牛肉の等級がA4かA5のものだけが「零石牛」として出荷されるのです。



つまり、零石牛は肉がたくさん取れて、肉質も最高だってことだね。
稻わらや配合飼料と、おいしい水で育っているよ。

※牛肉の等級は「その牛からどのくらい肉が取れるのか」を表すA～Cのアルファベットと、「肉の色つや」「肉の蹄まりときめ」「脂肪の色つやと質」「サシ(脂肪)の入りかた」を総合的に見た5～1の数字でしめされます。

「しづくいし」と言えば「そば」？

今から100年くらい前まで、たくさんお米はとれませんでした。冷害に強いイネの品種がなかったので、夏の気温が低いとすぐに凶作になりました。

お米は本当に貴重なものでしたから、そのかわりの食べ物として、どこかの農家でも「あわ」「ひえ」などの雑穀や、寒さに強い作物である「そば」を育てていました。

今は米づくりがさかんになり、そばの作付けをする農家は少なくなりましたが、零石のそばのルーツは「貴重なお米のかわりの食べもの」だったのです。

それでそばを食べるようになったのかあ。



とは言っても、めんとして「おそば」を食べてていたんではなく、そば粉をねってお餅のようにして食べていたんだよ。



しづくいしの 年間行事と伝統食



【大正月】とろろ飯・黒豆・田づくりごぼう・赤魚煮・柿なます・ぜんまいと豆の煮物・青豆塩煮・お吸い物

1月

正月には、長男が年の初めの清らかな水をくみ、ご飯をたいて神様にお供えする「若水とり」、みかんや串柿・鏡餅をお土産にお世話になった方やお嫁さんの実家にあいさつに行く「御年始」「姑礼」や、7日に改めてお餅や干し葉汁をお供えする「七日正月」がありました。

15日の「小正月」にはみずき団子などの「あらね」を飾り、「なり木責め」「夜鳥ぱい」で豊作を願い、16日には仏様にお餅を供えて先祖の供養をしました。

ところは「1年間
なめらかにすごす」、
豆類は「まめにすごす」といういわれから必ず食べたんだよ。



2月

「年祝い(二月正月)」には、数え年が男性42歳・61歳、女性33歳を祝って、ごちそうのお膳を神様にお供えしました。節分で煎った大豆をまき、午の日にはいなりパンを持ってお稲荷様で豊作と農作業に使う馬の健康を祈りました（「初馬」「二番馬」「三番馬」）。

【三月節句】節句菓子・きりせんしょ・白酒



3月

女の子の成長を祝う「三月節句」では、きりせんしょを食べました。

「春彼岸」では彼岸団子をお供えし、中日の「百万遍」では重っこ料理を持ちよって先祖を供養しました。「堆肥くばり」は農作業の始まりで、ふきどり餅とそばかっけ（からし菜漬け汁）がつきものでした。

4月

「しがつようか」は農作業がいそがしくなる前の休日で、だらくれ餅を食べたりして楽しむ日でした。

【しがつようか】
だらくれ餅(小豆・くるみ)



5月

「端午の節句」では、かしわ餅・小豆餅などをつくるて男の子の成長を願いました。中旬からは「田うち」「しろかき」「田植え」と農作業がいそがしくなり、朝早くから重労働をするため、重っこ料理を持ちよって1日に5~6回は食べました。

【農作業のとき】赤飯・にしんの粕漬け・切り干し大根・みずの酢の物・煮つけ・煮しめ・やだら漬け・たくあん漬け



6月

「さなぶり」は田植え後のお休みで、ほた餅などごちそうを食べて楽しみました。下旬には馬に感謝し、爪を切って放牧する「馬づくり」、田んぼや人の厄払いである「虫祭り」「疫病祭り」が行われ、へっちょこ団子や山菜、野菜の天ぷらなどを食べました。

【さなぶり】ほた餅・煮つけ・手打ちそば・醤油汁・漬物



8月

墓掃除をすませ佛様を拝む「七日益」、夏を前に体を休める「七日び」には赤飯がたかれました。13~14日にはお墓参りを、16日には寺参りをし、13日のごちそうは16日に川に流しました。20日の「送り益」では、かじか入り茄子炒めを食べました。

9月

上旬からは各神社の例大祭が始まり、餅などのごちそうを食べました。「秋彼岸」では彼岸団子やおはぎがつくられ、旧暦の満月「十五夜さん」では家でとれたものや丸いものを供え、お月様を拝みました。3月と同じように中日の「百万遍」では重っこ料理を持ちよって先祖を供養しました。



【福刈り】かりあげ餅(小豆団子など)・漬物

重っこ料理は、農作業などみんなが集まって協力すると、食べものを持ちよることから始まったんだね。



10月・11月

福刈りが終わると、刈りあげ餅を食べて祝いました。「いなり様のはつくにち／なかににち／すえくにち」で、天ぷらや油揚げをお供えして収穫に感謝し、来年の豊作を祈りました。「おだの神様」では、田んぼの神様に餅とお頭付きの魚が供えられました。子どもが1ヶ月早く年をとったことによる「お太子さん」では、うきうき団子がつくられました。農家の仕事納めである「庭払い(こきあげ)」では、だらくれ餅・手打ちそばなどごちそうが並びました。

12月

「五日えびす・十日えびす」では、えびす様に餅とお頭付きの魚を、「だいこく様のお年取り」では、だいこく様に団子・煮豆・まっか大根を、「山の神様のお年取り」では、山の神様にどぶろく・だらくれ餅・12個の小さな餅を、「じぞう様のお年取り」ではお地蔵さまに団子と煮豆を供えました。冬至には健康を願って冬至がゆを食べ、すす払いを始めた「すすはき」では、はらい餅が食べられました。28日には餅つきをし、31日は「年取り」で家族そろってごちそうを食べました。



あたら 新しい特産品と循環型社会

しづくいし菜のテクノロジープロジェクト

きれいな菜の花畑、おいしいなたね油、でもそれだけじゃないんだって。



あたら
新しい観光名所



あたら
新しい観光名所や特産品をつくり、障がいのある人の仕事をつくり、肥料やバイオ燃料として資源を循環させ、地域を元気にすることを目指しているんだ。



トラクターなど農業用機械の燃料

菜の花は、町内の農家組合で栽培しています。9月に種をまき、翌年の5月ころ花が咲きます。

使い終わった油はバイオディーゼル燃料の原料になります。

絞りかすは肥料に

菜の花の種子(なたね)は、コンバインで収穫します。



新しい特産品
なたね油「菜の雫」



「菜の雫」は道の駅などで売られ、さまざまな人やお店が料理に使います。

障がい者通所作業施設「かしわの郷」では、なたねを絞ってなたね油を取り、「菜の雫」の製品をつくっています。

道の駅なんかで売ってるねえ。なたね油はいい香りがしておいしく、酸化しにくくて健康にもいいんだよ。

絞ってからていねいに3過がくりかえされ、おいしいなたね油になっていくんだよ。



雪石いいとこみつけプロジェクト

④ 防災(安全・安心)

にじ 虹のふもとのまち



身のまわりの安全・安心について考えてみよう。



雪石家の人びと



お父さん



お母さん



お兄ちゃん



わたし



弟



おじいちゃん



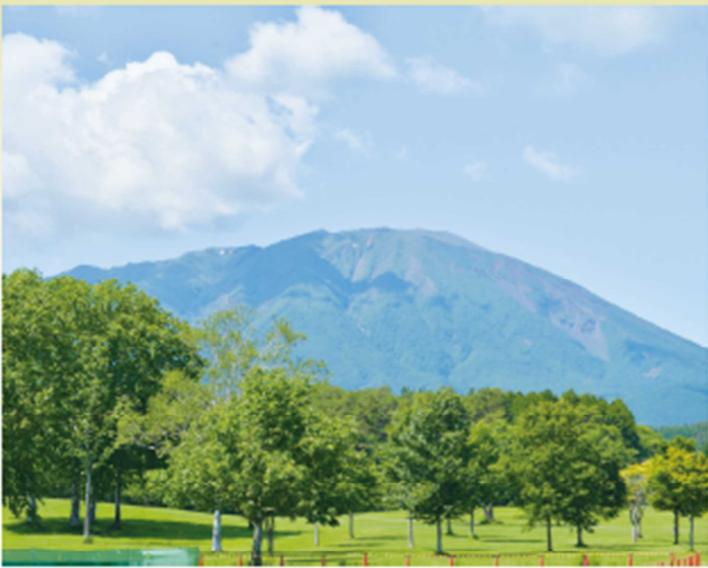
おばあちゃん



雪石町教育委員会



そのとき、だれかを助けるように



岩手山が噴火したら

岩手山は、むかしから何度も噴火をくりかえしている火山です。100年ほど前の噴火では火山灰が10センチメートルも積もりました。300年ほど前の噴火ではたくさん溶岩が流れました。噴火による災害として、このほかに火碎流や火碎サージ、融雪による火山泥流などが考えられます。



町では国や県、盛岡市、八幡平市、滝沢市と協力して対策を進めているよ。

大きな地震は必ずやってくる

1998(平成10)年に起きた岩手県内陸北部地震では、零石町長山で震度6弱が観測されました。立っていることが難しく、固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりするゆれの大きさです。

地震のときには、ものが「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」ところで命を守りましょう。



この地震の影響で、葛根田渓谷の玄武洞(葛根田の大岩屋)がくずれてしまったんだよ。



防災マップを活用しよう

零石町では、災害で被害が出そうな場所や、災害が起きたときに避難する場所がわかる「零石町防災マップ」をつくり、すべての家に配っています。

お家の人にいっしょに見てみましょう。



うちにいちばん
近い避難所はどこ
かな。



おじいちゃんち
は大丈夫かな
あ。



大雨がふったとき

2013(平成25)年8月9日の平成25年8月秋田・岩手豪雨では、零石で264ミリ、橋場や春木場では300ミリを超える雨が降り、町内で750軒以上の家の水につかり、がけ崩れなどの土砂災害は100か所以上になりました。

その日の御明神小学校の校門あたりの写真だって。
水がすぐそばまで上がってきているね。



中学生はこんなことを学んでいる

2021(令和3)年9月9日、零石中学生の1年生は、避難所用の段ボールベッドの組み立て、防災グッズの作り方、避難所の運営や防災食をおいしく食べる工夫を体験し、さまざまな災害とそこで起きる状況を想定し、「そのとき、どう判断するか」を考えて行動するクロスロードゲームに挑戦、防災とボランティアについて学びました。



中学生にも手伝えること
はある。「だれかを助け
られる人」になれるはず
なんだ。



みんなが組み立て
いるこの段ボールベッド
があれば、避難所でも
床で寝なくてすむ。とし
よりや身体の弱い人は
助かるんだ。



身のまわりの安全

大きな災害でなくとも、ふだんの生活の中にも危険はひそんでいます。

例えば、登下校の道すじで「どんな危ないことがあるか」「どこが危ない場所か」などを調べて、自分なりの「安全マップ」をつくってみましょう。



糸石いいとこみつけプロジェクト

⑦まちづくり にじ 虹はつなぐ



糸石の人びと



お父さん



お母さん



お兄ちゃん



わたし



弟



おじいちゃん



おばあちゃん



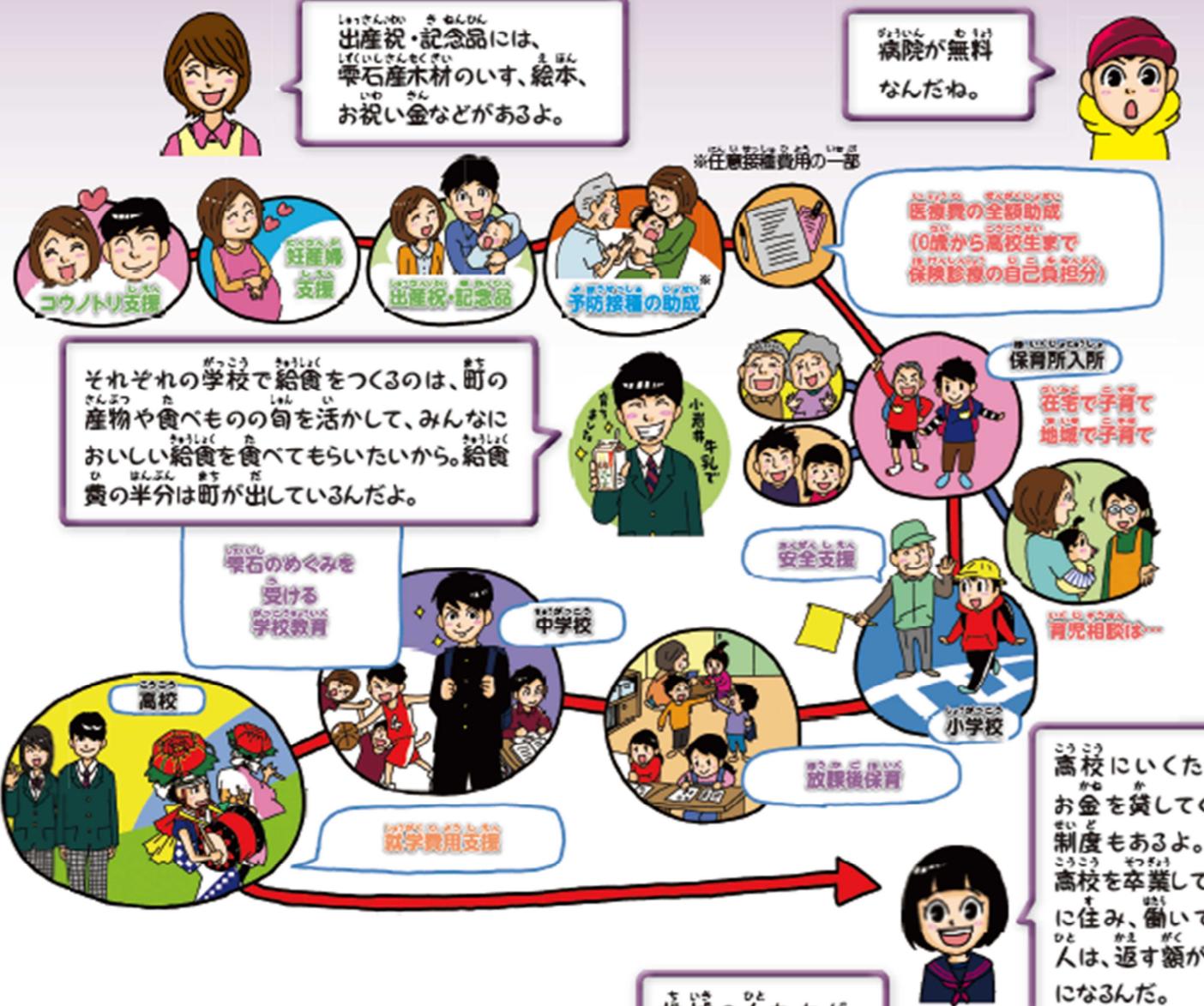
糸石町教育委員会



みんなに やさしいまち しづくいしをつくる

こそだてが楽しくなるまち 霧石

さまざまな子育て支援



「おたがいさま」をつなげる

霧石町でも、人口減少・少子高齢化が進んでいます。あと15年もたたないうちに、町内の約3分の1が75歳以上の人になると考えられています。

今うちに「自分でできることは自分でやる(自助)」「できないことや不安なことは家族や隣人に相談する(共助)」ができる地域にしておくことが必要です。

町では、一人ひとりの「おたがいさま」をつなげ、みんなが住み慣れた地域で安心して暮らせるように取り組みを続けています。

おたがいさま

地域の人たちが、ふだんの生活の中でおたがいに見守り合う「ゆるやかな見守り体制」や、災害のときの避難行動支援について話し合っているよ。



おたがいさま情報交換会



コミュニティ・スクールって?

学校(スクール)と保護者や地域の人たち(コミュニティ)が知恵を出し合い、いっしょになって子どもたちの豊かな成長を支えるためのしくみです。例えば、2021(令和3)年9月8日、御所小学校の避難訓練にあわせて行われた消防団操法見学会は、地域の人たち(消防団)と学校がいっしょに企画したコミュニティ・スクールの取り組みの1つです。

学校の先生たちは、子どもたちに消防団の活動を見てもらうことで防災の大切さを考えもらいたい。



地域の人たちは、子どもたちに消防団について知ってもらい、消防団で活動する人を増やしたい。



子どもたちは、消防団の活動や防災について学べる放水体験だってできる。いいことづくしたね。



「霧石町保健・福祉ガイドブック」の作成



このガイドブックは、保健や福祉についての図りごとをどこに相談したらいいかすぐに分かるようになっているんだ。



「出産・子育て世代」「はたらく世代」「高齢や介護の必要な人」「障がいのある人」などで項目が分かれているから、分かりやすいねえ。

よりよいまちをつくるために

私たちができることは？

よりよい零石町をつくっていくために、たくさんの人たちが努力しています。

私たちにも、何かきっとできることがあるはずです。

例えば、町内の小学生・中学生・高校生がしているこんな活動は、きっと明るい未来につながっているにちがいありません。

困っている人のために



「雪んこ見守り隊」では、高齢者や障がい者世帯などの安否確認と雪かきをやっているよ。ぼくも参加しているし、中学生の子たちもいるなあ。



ふるさとをきれいに



零石中学校では、毎年国道の清掃をしているわ。



御明神小学校の春木塚駅清掃とか、小学校だってがんばっているよ。



まちをもりあげたい・元気にしたい



オリンピック聖火リレーの岩手県内出発式は、零石中学校が会場だったな。応援団・チアリーダー・吹奏楽部の応援がリレーをもりあげたんだ。



そういえば、軽トラ市で零石高校の生徒さんたちがお茶を売っていたわ。友好都市・静岡県富士市の特産品ね。

